

詠まれた校歌には「世界」「世紀」などの言葉が見られる。

このように見てくると、学校のシンボルである校歌を歌い、その意味を十分に理解することは、実は学校の教育方針、教育目標を認識することにもつながる。

また一方では、学校愛、郷土愛という観点からも校歌のもつ意味は大きいと言える。今回の研究をすすめるにあたって、九州女子大学の大庭茂美教授には適切なアドバイスをいただき、福岡市教育委員会初等教育課には、校歌の収集からアンケート調査にいたるまで、大変お世話になったことを付記し、お礼を申し上げたい。今後は他地区、他県との比較をすることを課題とした。

注

- 注1 九州教育学会研究紀要 第16巻 P143
- 注2 国語大辞典（小学館） P854
- 注3 広辞苑（岩波書店） P882
- 注4 校歌——心の風景（学文社） P21
- 注5 中学校学習指導要領（文部省） P122
- 注6 中学校学習指導要領（文部省） P122
- 注7 広辞苑（岩波出版） P24
- 注8 国語大辞典（小学館） P1923
- 注9 国語大辞典（小学館） P1686
- 注10 国語大辞典（小学館） P2276
- 注11 国語大辞典（小学館） P2022
- 注12 国語大辞典（小学館） P646
- 注13 大辞林（三省堂） P2614
- 注14 大辞林（三省堂） P2596

おわりに

自分が公立中学校に勤務していた時は、自分の学校の校歌を歌い、学校を転勤した後も誇りをもって歌っていた校歌であるが、このような形で、福岡市立143校の校歌を分析してみると、多くの特徴があることがわかる。

まず校歌は学校行事の中でも入学式、卒業式、始業式、終業式においては、全校で歌われている。このような行事を通して、全校の児童生徒が全員で歌うことは、自分の学校を意識し、愛校心を養うという観点から、校歌の持つ意味は非常に大きいと言える。しかしその歌詞の中に児童生徒を思う気持ち、学ぶ者への心構え、未来への希望、励ましの文言が詠まれており、教育目標との関連が大きいことがわかる。

第二に校歌の中には、その地域を代表する自然の風景（例えば、山、川、海など）が詠まれている場合が多い。福岡市の各区においては、各区の特色があるが、福岡市全体を見た場合、「脊振山」と「玄界灘」が非常に多く詠まれており、福岡を代表する自然の風景と見られていることがわかる。

第三に徳目的内容（例えば、明るい、伸びる、強い、輝く、清いなど）の文言が全校の校歌に詠まれている。

第四に校歌には身体の部位を表わした文言が多く使用されている。このことは研究を進めるまでは、あまり意識しなかったが、実際に分析してみると非常に多いことが分かる。それも上半身（例えば、手、胸、肩、眉など）の部位が多く詠まれている。

第五に校歌には色彩に関する文言があり、全体的に明るい色調（特に緑は最も多い）が多く使われている。

第六に多くの校歌に使われる文言に光、希望、友、歴史、心、夢などがある。

第七に校歌は上記のように自然の風景、徳目的文言、色彩などの観点からも見れるが、時代背景をよくあらわしているということが分かった。戦後に設立された学校の校歌には「平和」「日本」などの文言が多く、平成の時代に

らたちなおり、国民全体が平和国家を強く望んでいたことが校歌からもわかる。

このことは「日本」という文言についても同じことが言える。「平和」と同じく12位にあるが、戦後に制定された校歌の中に多く詠まれている。

一方、平成の時代に設立された学校の校歌には「世界」という文言が多く使われていることがわかる。「集う我れらは、世界をめざし、友と手を取り伸びてゆく」「世界の子らと手を取りて、平和の国をきずきなす」「夢は世界にはばたいて」のような歌詞を見ることができる。

このように見てくると校歌は自然環境のみならず、時代背景を如実に物語っていることがわかる。

その外に校歌の中に見られる特色として、児童の呼称についてみると、「われら」「若人」が多く使用されていることがわかる。最も多く用いられている「われら」は大辞林によると「自分たち、わたくしたち、われわれ」^(注13)という意味をもっている。このように見ると校歌の中では「われら」=「一体感」という式がイメージできる。

学校の中で一体感をもって、集団生活を営むことは、誰もがよりよい学校生活を送るのに、さらには社会で生きていく過程において大切な要素の一つである。目標に向かって、協力的でみんなですすんですするという一体感が生まれてくるのではないかと思われる。

次に「若人」の表現についてであるが「若い」について大辞林によると「①生まれながらまだ多くの年月を経していない、幼い段階は過ぎているが、十分に成熟していない。② 元気で活力にあふれている——以下略——」^(注14)

小学校の児童を「若人」と表現することによって、これから先には希望のある人生があるということ、何事にも挑戦して生きるということを暗示しているともとれる。これからの世の中を担っていく存在であることを自覚させると共に、願いをもっているということが強く読みとれる。

真理。心に希望を与えるもの』^(註11)とある。

また辞典によると「希望」の意味に、『① こいねがうこと。あることが実現することを待ち望むこと。また、その気持ち。のぞみ。願望。② 将来への明るい見通し、のぞみ。可能性、見込み。』^(註12)とある。

このような意味から見ても分かるように、校歌の中で最も多く使われる「光」と「希望」の二つの文言は、どちらも生きることへの望みや明るい未来を表わしているようである。また、この二つの文言がこれだけ多く詠まれているのは、児童生徒に明るい未来を迎えてほしいという思いが校歌の中に強く含まれているように見える。

次に、校歌の中で多く詠まれている文言に「友」がある。「友」は学校生活を送る上でかけがえのないものといえよう。「友と語る」、「心の友」、「友と肩くみ」、「友と手を取り」、「友と仲良く」、「友情」のような文言で表現され、校歌の中に詠まれている。友との助けあいの大切さを感じさせる。

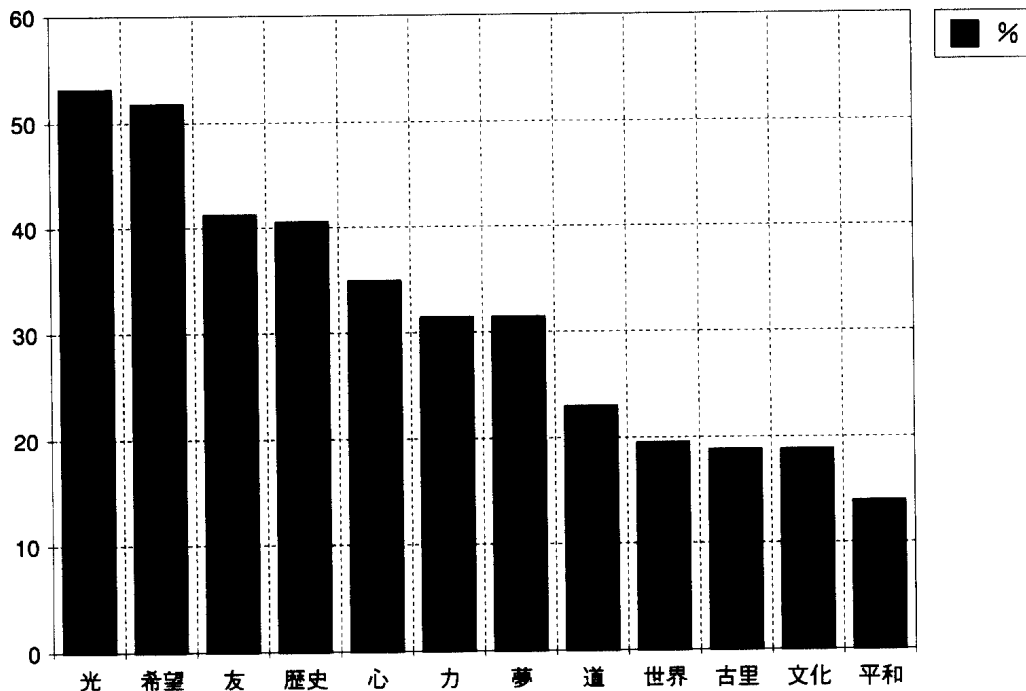
校歌の中にみられる第四位に「歴史」がある。ここでは、「歴史」という文言だけの頻出をみたが、校歌の中には、学校を含めた地域の歴史を具体的に詠んでいるものもある。即ち、校歌のなかで詠みこまれた地域の歴史は、年月を経て語りつがれ、その伝統を受けつぎ、心に刻むことによって、学校を中心とした景観に、さらに深い思い入れができていないかと思う。

ほかに校歌の中に多く使われている文言に「心」「力」「夢」「道」「世界」「文化」「平和」などがある。

校歌の中で多く使われている文言の10位にある「平和」をしてみると、これは戦後まもなく（昭和30年代から40年代）に新設された学校の校歌の中に多く見られることがわかった。戦後に設立された学校の校歌を見ると、「平和の光さすところ、理想に燃えるあつい手を」、「みんな友だち、はつらつと、つくる平和の人の和を」、「夢のつばさあこがれて、平和の空へ大空へ」などのように平和を請い願う気持ちがこめられている。

このような「平和」という文言を含む校歌は、平成の時代に設立された学校には非常に少ないことがわかった。戦後の昭和30年～40年代の頃は敗戦か

多く使われる文言について



（グラフは表の10位までとする）

歌の歌詞には、人間の生き方やあり方が多く表わされている場合が多いが、校歌においても例外ではない。

校歌の中に多く使われる文言を見ていくと全体的にイメージが良く、明るい未来を暗示させる言葉が多く使用されていることがよくわかる。その中でも「光」と「希望」が最も多く詠まれており、福岡市143校の小学校のうち、半数以上の小学校の校歌に詠まれていることがわかった。

辞典によると「光」は『〔1〕（物理的あるいは視覚的意味で）、明るい、輝かしい、美しいなどと感じられるもの。① 視覚を起こさせるものすなわち発光体から発する光源およびそれが反射したもの、② 人間の視覚で感じ得る電磁波、③ 色つやなどの輝くばかりの美しさ、光沢、④ 容貌、容姿の美をたとえていう。まばゆいばかりの美しさ、また、この上なく美しい人。⑤ 眼の輝き、眼光。また、物を見る眼の様子。〔2〕（〔1〕を精神的な意味でとらえて）① さかんな勢いや力をたとえていう。② 知恵や徳の輝き、すぐれた知徳、③ はえあること、光栄、見ばえのするもの。闇を照らす光として感ぜられるもの。迷い、悲しみ、無知などから覚めさせるもの、悟り、

の他にも、身近にある地形も詠まれている。このように、校歌の中には、自然現象が多く詠みこまれていることがよく分かる。

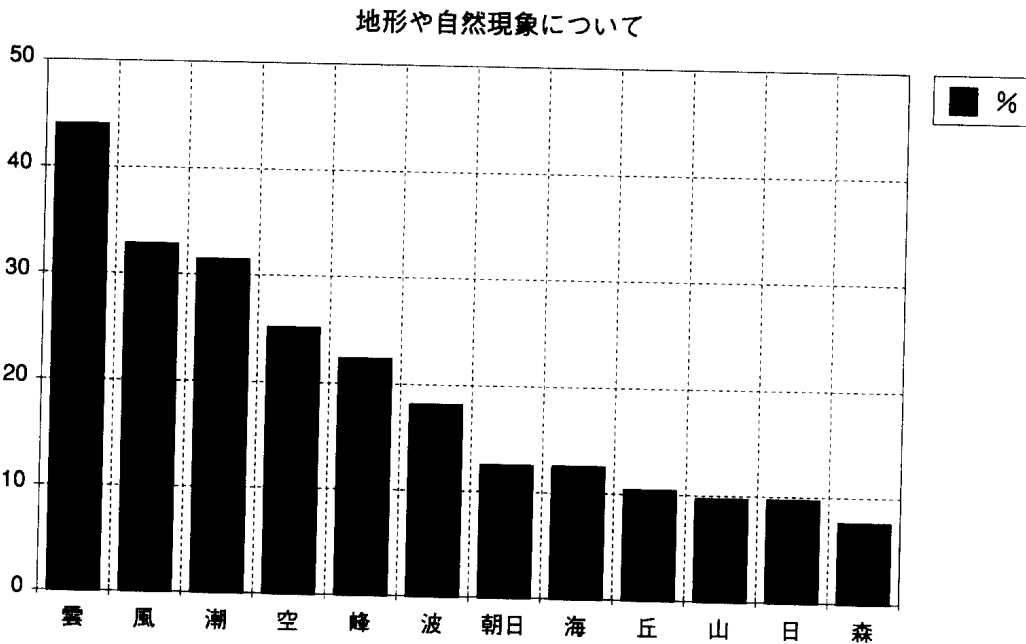
その他特異なものとして、福岡空港の近隣の学校で「爆音高く、今日も飛ぶ、ああ力満ち、ふるいたつ」や、博多駅の近隣の学校で「学ぶ緑のこの庭に、ひびく汽笛は博多駅」また、福岡タワーの近隣の学校で「空までそびえるタワーの光、ここは希望の発信地」などがある。正に地域と非常に密着した校歌の一節と言える。

6 多く使われる文言について (143校)

1) 光	76校	53.1%
2) 希望	74校	51.7%
3) 友	59校	41.2%
4) 歴史	58校	40.5%
5) 心	50校	34.9%
6) 力	45校	31.4%
夢	45校	31.4%
7) 道	33校	23.0%
8) 世界	28校	19.5%
9) 古里	27校	18.8%
文化	27校	18.8%
10) 平和	20校	13.9%
11) 喜び	16校	11.1%
12) 日本	12校	8.3%
13) 未来	11校	7.6%
14) 翼	9校	6.2%
15) 永遠	4校	2.7%
16) 笑顔	1校	0.6%
伝統 など	1校	0.6%

校歌に関する調査研究1（牛島）

	砂		2校	1.3%
	谷		2校	1.3%
	渚		2校	1.3%
	夕日	など	2校	1.3%
18)	池		1校	0.6%
	霜		1校	0.6%
	河原		1校	0.6%
	北風		1校	0.6%
	大地	など	1校	0.6%



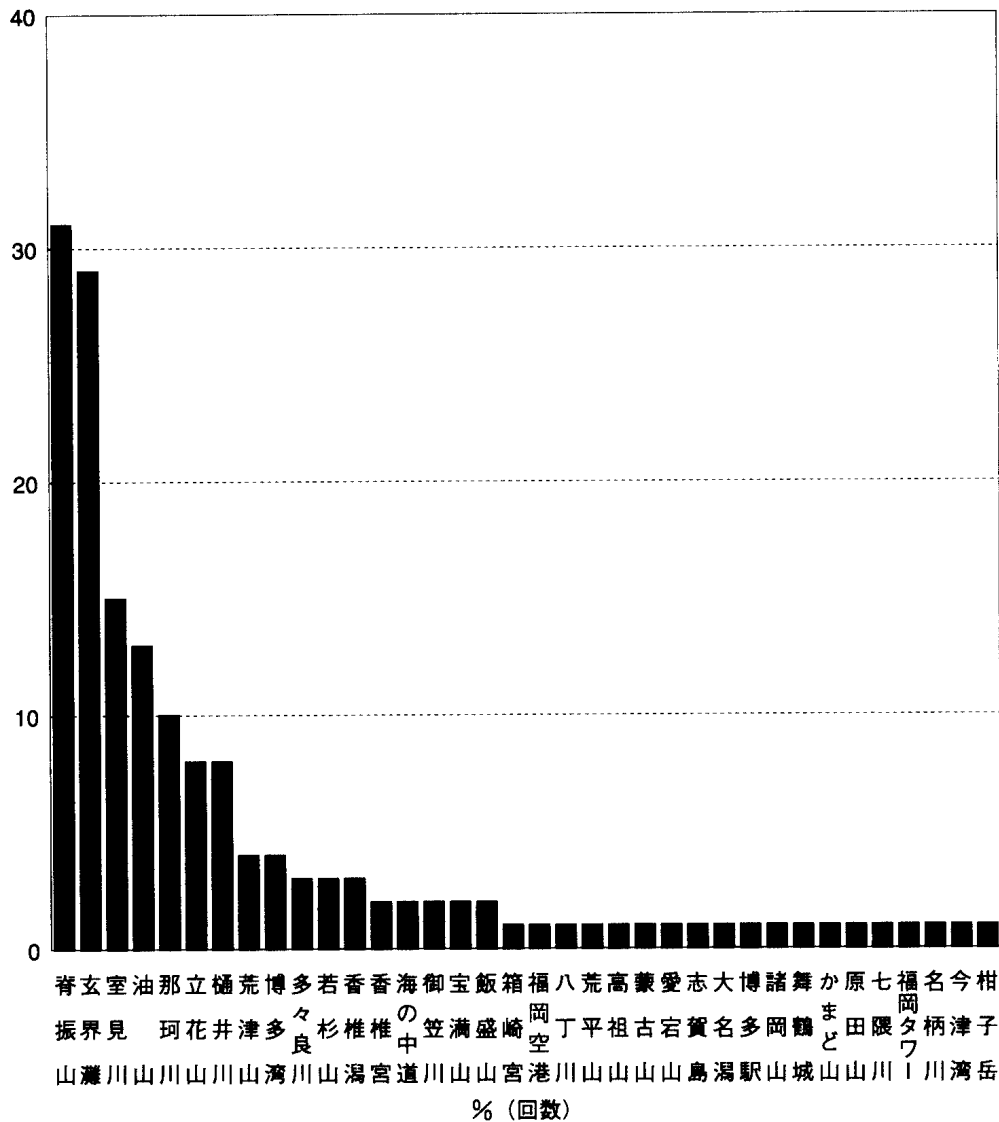
（グラフは表の10位までとする）

児童生徒は日常生活の中であまり意識していないが、地形や自然現象の中で生活し成長していく。そこで校歌の中に見られる地形や自然現象についてみていくと、「雲」という文言が最も多く詠まれていることがわかる。「雲」は空に浮かんでいるものであるが、校歌の中で「わきたつ雲」、「白い雲」などのように表現されている。「むくむくとやる気を起こす」というような意味で使われているのではないかと思われる。

次に校歌の中に多く詠まれていたのが「風」、「潮」、「空」などである。そ

2) 風	47校	32.8%
3) 潮	45校	31.4%
4) 空	36校	25.1%
5) 峰	32校	22.3%
6) 波	26校	18.1%
7) 朝日	18校	12.5%
海	18校	12.5%
8) 丘	15校	10.4%
9) 山	14校	9.7%
日 (陽)	14校	9.7%
10) 森	11校	7.6%
11) 野	10校	6.9%
12) 大地	9校	6.2%
13) 水	8校	5.5%
14) 磯	5校	3.4%
坂	5校	3.4%
土	5校	3.4%
15) 泉	4校	2.7%
浜	4校	2.7%
16) 雨	3校	2.0%
海原	3校	2.0%
影	3校	2.0%
岸辺	3校	2.0%
自然	3校	2.0%
星	3校	2.0%
川	3校	2.0%
17) 嵐	2校	1.3%
雪	2校	1.3%

福岡市の風景



その他、川においても「室見川」(15%)「那珂川」(10%)「樋井川」(8%)「多々良川」(3%)など各地の特色として詠まれている。

このように校歌の中には、福岡における風景のシンボルが、また各地の特色が詠われることによって、児童、生徒の思い出として心に焼きつき、自分の故郷を思い出すものとして歌い継がれるのであろう。

5 地形や自然現象について (143校)

1) 雲 63校 44.0%

福岡市の風景	% (回数)
福岡空港	1 (2)
八丁川	1 (2)
荒平山	1 (2)
高祖山	1 (2)
蒙古山	1 (2)
愛宕山	1 (2)
志賀島	1 (1)
大名瀉	1 (1)
博多駅	1 (1)
諸岡山	1 (1)
舞鶴城	1 (1)
かまど山	1 (1)
原田山	1 (1)
七隈川	1 (1)
福岡タワー	1 (1)
名柄川	1 (1)
今津湾	1 (1)
柑子岳	1 (1)

※ 風景は、校歌の中で使われた回数

各区ごとにそれぞれのもつ風景の特色を見てきたが、福岡市全体で見ると、何と云っても、「脊振山」「玄界灘」の二つが特筆すべきことがよくわかる。

「脊振山」は31% (45回) も詠まれていることから見ても、いかに福岡市住人にとって大きな影響を与え、シンボリック的存在であるかがわかる。このことは「玄界灘」が29% (41回) も詠まれていることと合わせて、福岡市における自然風景の財産と言える。

その他、山では「油山」「立花山」「荒津山」「宝満山」「若杉山」というように各区において特色ある山が詠まれ、地域のシンボルになっていることがわかる。

校歌に関する調査研究1（牛島）

また、玄界小学校、能古小学校においては「玄界灘」に浮かぶ島にある小学校という特色もあり「黒潮走る玄界灘」（玄界小学校）「玄界灘の潮の流れ」（能古小学校）などの文言で表されている。

また「室見川」は早良区との境界を流れるという意味で西区においても非常に親しまれた川である。

その他「蒙古山」「愛宕山」「柑子岳」「飯盛山」「高祖山」など地域に親しまれている多くの山が詠まれていることも西区の特色であり、いかに地域の誇りになっているか、また、地域と学校が密着しているかがよくわかる。

⑧ 福岡市全体（143校）

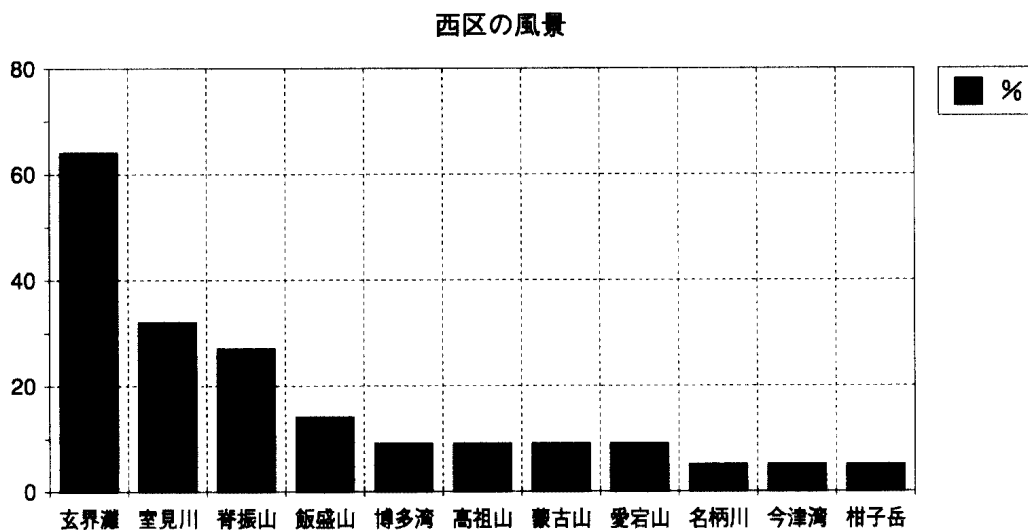
福岡市の風景	%（回数）
脊 振 山	31（45）
玄 界 灘	29（41）
室 見 川	15（21）
油 山	13（18）
那 珂 川	10（15）
立 花 山	8（12）
樋 井 川	8（11）
荒 津 山	4（6）
博 多 湾	4（6）
多々良川	3（5）
若 杉 山	3（5）
香 椎 潟	3（4）
香 椎 宮	2（3）
海の中道	2（3）
御 笠 川	2（3）
宝 満 山	2（3）
飯 盛 山	2（3）
箱 崎 宮	1（2）

域の環境といかに密接な関係にあるかを端的に示したものと言える。

⑦ 西区 (22校)

西区の風景	% (回数)
玄界灘	64 (14)
室見川	32 (7)
脊振山	27 (6)
飯盛山	14 (3)
博多湾	9 (2)
高祖山	9 (2)
蒙古山	9 (2)
愛宕山	9 (2)
名柄川	5 (1)
今津湾	5 (1)
柑子岳	5 (1)

※ 風景は、校歌の中で使われた回数

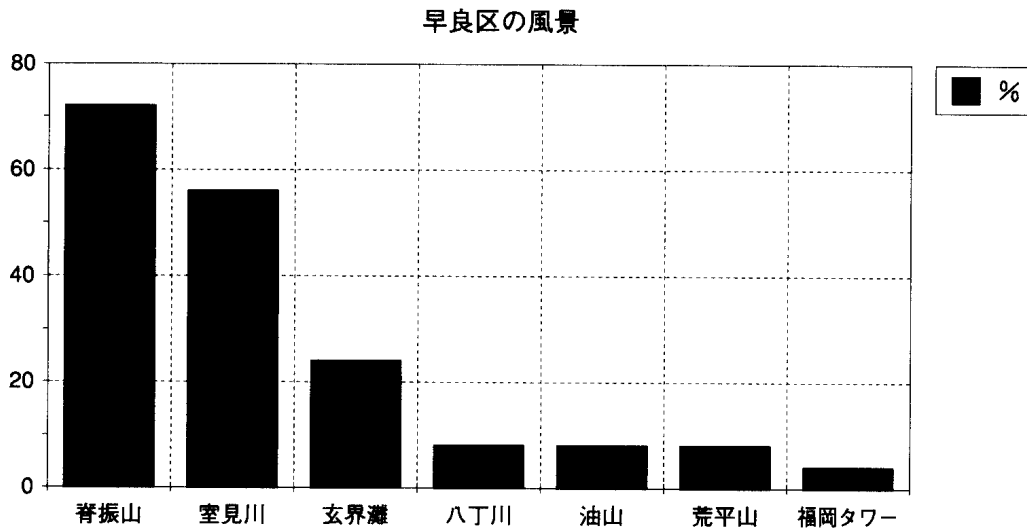


西区において、最も多く詠まれている「玄界灘」は福岡市全体においても詠まれているが、何と云っても最も長く玄界灘に接し、西区の多くがこの海に面していることも「玄界灘」の身近さを感じさせる。

⑥ 早良区 (25校)

早良区の風景	% (回数)
脊 振 山	72 (18)
室 見 川	56 (14)
玄 界 灘	24 (6)
八 丁 川	8 (2)
油 山	8 (2)
荒 平 山	8 (2)
福岡タワー	4 (1)

※ 風景は、校歌の中で使われた回数

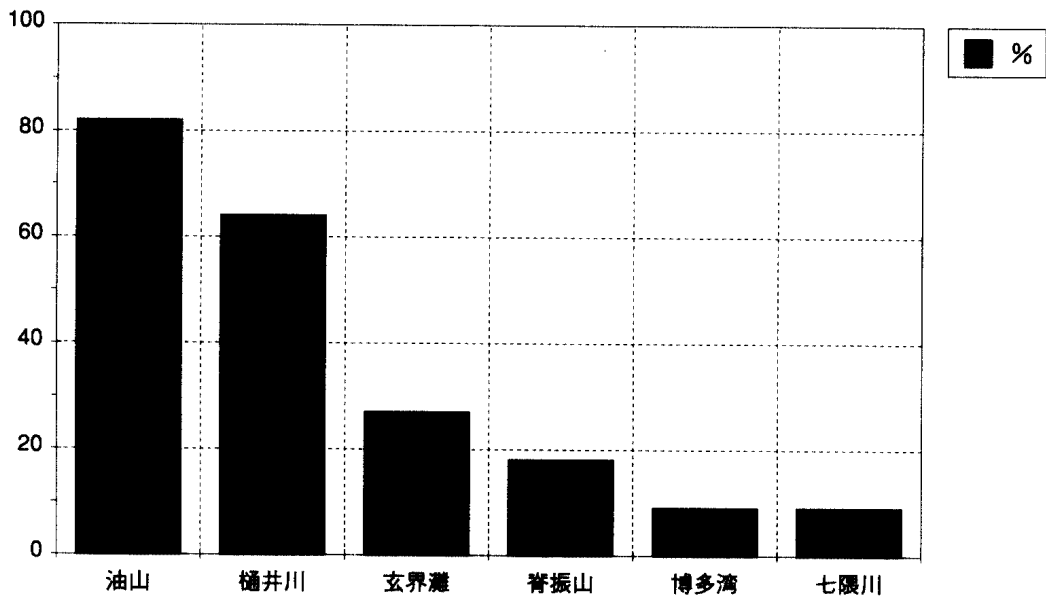


早良区においても、福岡市全体と同様に、「脊振山」が最も多く詠まれているが、早良区から見る「脊振山」は最も山の形がよく、早良区は佐賀県境という点でも「脊振山」に対する思いは強い。

また「室見川」は西区との境界を流れる最も大きな2級河川で、流長15.1キロメートル、流域面積93.8平方キロメートルの川である。

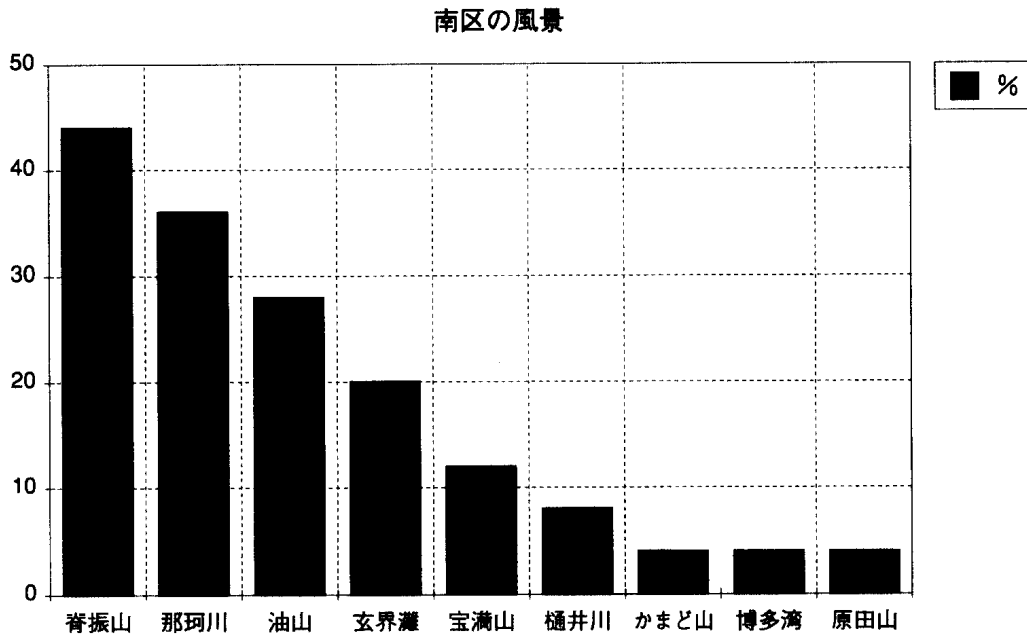
このほか福岡市のシンボルとしている「福岡タワー」が「空までそびえるタワーの光、ここは希望の発信地」という文言で詠まれていることは、最近の都市化の風景を表わすものとして、特徴的である。この早良区の新しい百道浜に新設された学校の校歌にこのような文言で詠まれることは、校歌が地

城南区の風景



城南区においては、何といても「油山」であり、82.0%の学校の校歌に詠まれていることから、いかに城南区において親しまれているかがわかる。「油山」は城南区の住人、学校にとっては憩いの場所であり散策の場所である。即ち最も身近な、しかも誇れる山である。城南区の顔と言っても過言ではない。

また「樋井川」も城南区を中心を流れている川として最も身近に感じられている。その他「樋井川」の支流としての「七隈川」が詠まれているのはおもしろい。



南区においては「脊振山」と「那珂川」が多く詠まれている。「脊振山」は福岡市全体において詠まれているが、南区からの眺望が最も素晴らしいことから44%にもものぼる多くの学校で詠まれているのであろう。また「那珂川」も南区において最も大きな川であり、南区においては欠くことのできないシンボリック的存在の自然群である。

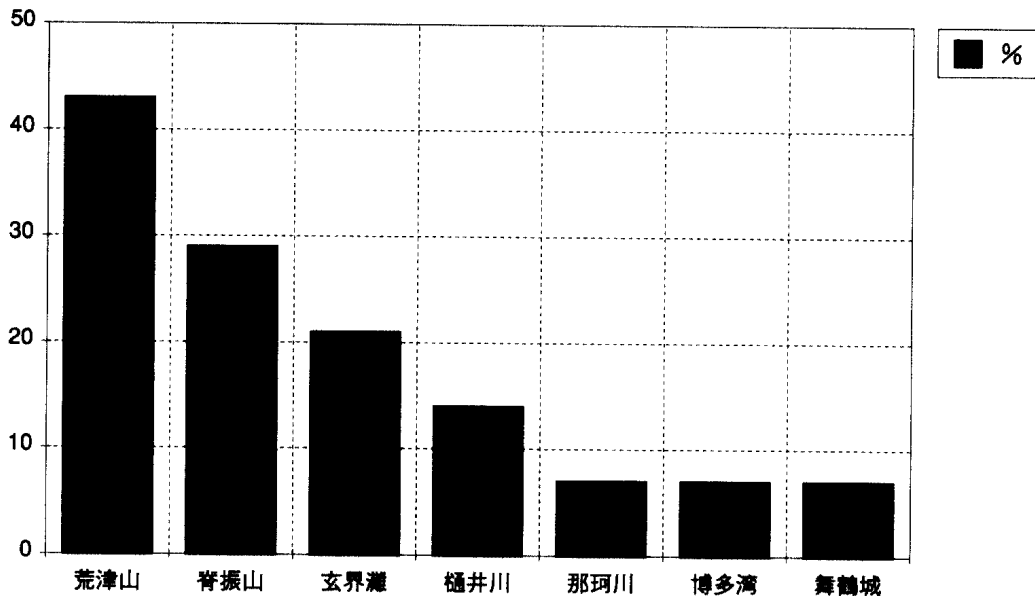
油山は早良区，城南区，南区の境界にある山で標高592メートルである。脊振山ほどではないが，南区の風景には非常に身近な自然群の一つである。

⑤ 城南区（11校）

城南区の風景	% (回数)
油 山	82 (9)
樋 井 川	64 (7)
玄 界 灘	27 (3)
脊 振 山	18 (2)
博 多 湾	9 (1)
七 隈 川	9 (1)

※ 風景は，校歌の中で使われた回数

中央区の風景



称して呼んでいる。とりたてて山と言える程ではないが，中央区にしてみれば，「荒津山」はなじみ深い呼び名であり，多くの人に親しまれている。

④ 南区 (25校)

南区の風景	% (回数)
脊振山	44 (11)
那珂川	36 (9)
油山	28 (7)
玄界灘	20 (5)
宝満山	12 (3)
樋井川	8 (2)
かまど山	4 (1)
博多湾	4 (1)
原田山	4 (1)

※ 風景は，校歌の中で使われた回数

博多区の自然群では「那珂川」「脊振山」「御笠川」が校歌の中に多く詠まれている。「那珂川」は福岡市早良区から筑紫郡那珂川町を経て福岡市南区、中央区、博多区を流れる全長35.1km、流域面積111.1平方キロメートルの川である。また「御笠川」は太宰府市から福岡市博多区へ流れる全長20.7km、流域面積100平方キロメートルの川である。この2本の川は博多区の中心を流れ、博多湾にそそぐ博多区に最もなじみの深い川と言える。

「脊振山」は博多区にとどまらず、福岡市全区の小中学校において詠まれている自然群である。標高1055.2mの高さがあり、西北西と東南に長大な尾根を延ばして脊振山地を構成しており、西端は佐賀県唐津湾に至る。山頂からの眺望は絶景で阿蘇、雲仙、英彦山まで見ることができ、福岡市が誇れる山である。

その他、博多区は福岡県を代表する「福岡空港」「博多駅」があり、これも校歌に詠まれ、特色の1つと言える。

③ 中央区 (14校)

中央区の風景	% (回数)
荒津山	43 (6)
脊振山	29 (4)
玄界灘	21 (3)
樋井川	14 (2)
那珂川	7 (1)
博多湾	7 (1)
舞鶴城	7 (1)

※ 風景は、校歌の中で使われた回数

中央区の自然群としては「荒津山」「脊振山」「玄界灘」が多く詠まれているが、脊振山や玄界灘、博多湾などは何も中央区のみの特色ではなく、福岡市全区で多く詠まれている。中央区の特色としては「荒津山」という表現であろう。「荒津山」は、福岡市中央区荒戸から西公園一帯に広がる丘陵地を総

るが福岡市全体で詠まれている代表的な自然群である。九州の北西，福岡県と佐賀県にまたがる海域であり，その雄大な海岸美は福岡市が誇れる重要な海である。

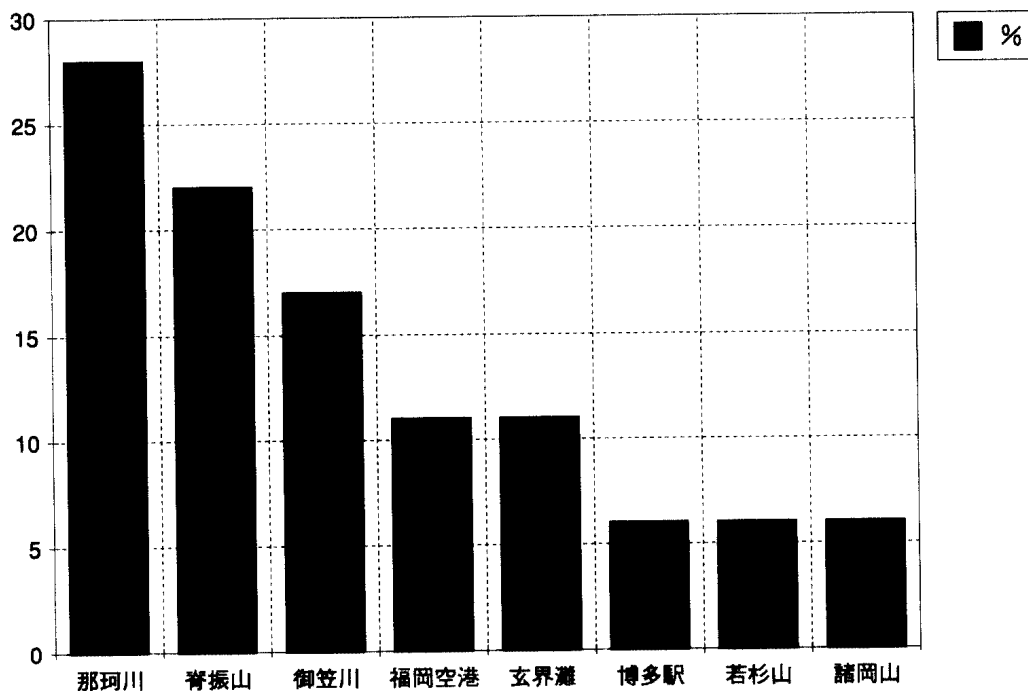
その外，東区を特徴づけるものとして，「多々良川」「香椎潟」「香椎宮」「筥崎宮」「志賀島」などが詠まれていた。

② 博多区 (18校)

博多区の風景	% (回数)
那珂川	28 (5)
脊振山	22 (4)
御笠川	17 (3)
福岡空港	11 (2)
玄界灘	11 (2)
博多駅	6 (1)
若杉山	6 (1)
諸岡山	6 (1)

※ 風景は，校歌の中で使われた回数

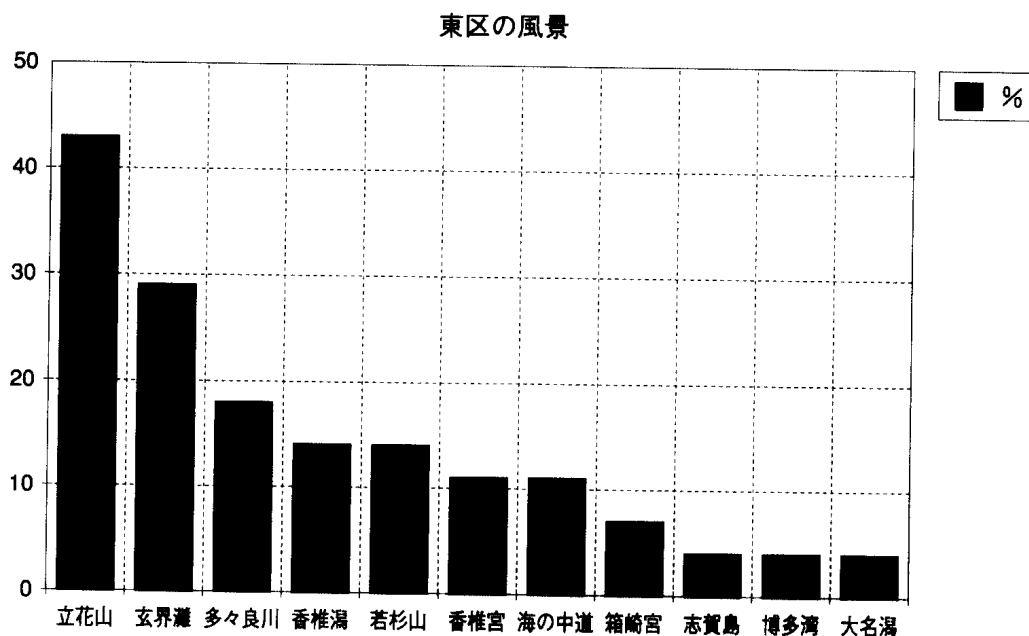
博多区の風景



① 東区 (28校)

東区の風景	% (回数)
立花山	43 (12)
玄界灘	29 (8)
多々良川	18 (5)
香椎潟	14 (4)
若杉山	14 (4)
香椎宮	11 (3)
海の中道	11 (3)
箱崎宮	7 (2)
志賀島	4 (1)
博多湾	4 (1)
大名潟	4 (1)

※ 風景は、校歌の中で使われた回数



にあるとは言え681mと高く、東区から見れば優姿である。

次に東区の風景の中では「玄界灘」が多く詠まれていた。玄界灘は後述す

的なものであり、校歌を歌いながらイメージを描く時に大きくかかわってくるものと言える。

校歌の中に見られる色彩について見ていくと「緑」が圧倒的に多く詠まれていることがわかる。また「緑」は「新緑」「鮮緑」「翠」「深緑」というような表現でも詠まれており校歌の中で最も好まれている色彩であることがわかる。

辞典によると「緑」は「草木の葉のような色、海や空などのような色、草木の芽、新芽」^(註10)という意味がある。

「緑」は自然を表わす色であり、心が安らぐ色であると言えよう。また自然の豊かな所で学校生活を送ることができる望ましい環境を表わしていると思える。

その外「青」,「白」のように清潔感のある明るいイメージの色彩が多く詠まれていることがわかる。このように、校歌の中に見られる色彩は全体的に明るく、安らぎを与える自然の色が読みとれる。

4 校歌に見られる自然群の表現

校歌に詠まれている自然群（野山、河川、海など）については、地域の特色が非常に明確である。学校がどのような自然環境の中にあるかを明らかにするためには、この自然群の表わし方は非常にわかりやすい。そこで今回は福岡市の7区ごとにどのような自然群が詠まれているかを分析し、考察することにした。

東区は福岡市の中で最も人口が多く、小学校の数も最も多い。

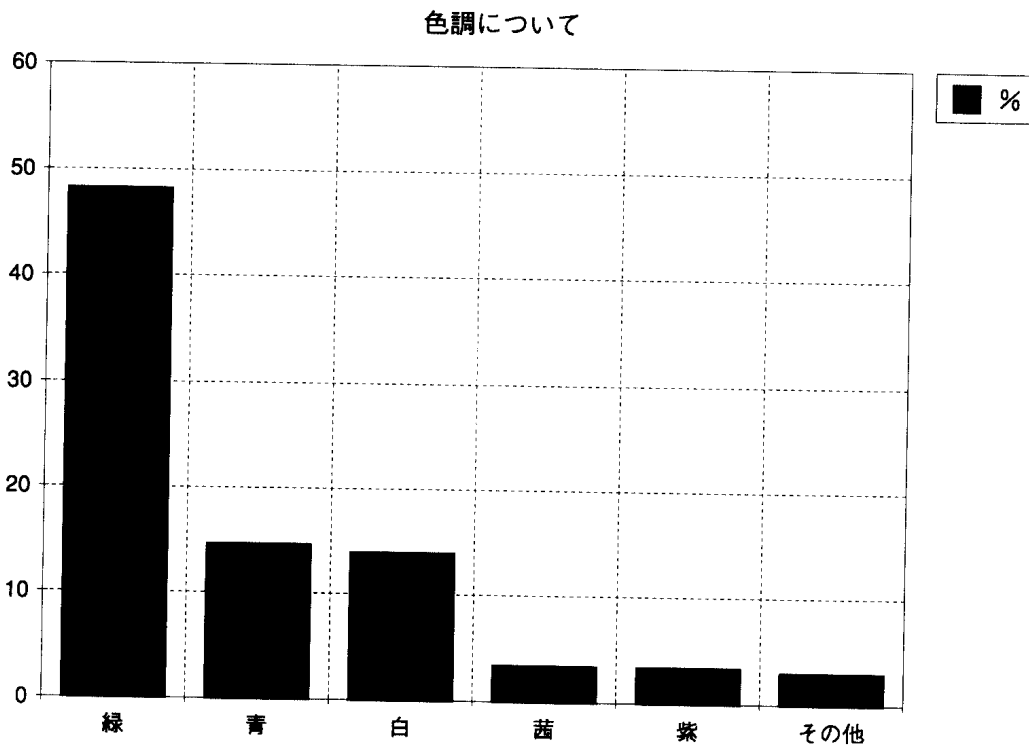
東区の風景を見ていくと表からもわかるように約半数の小学校で「立花山」が詠まれている。「立花山」は福岡市東区と粕屋郡新宮町、久山町の境界にある山であり367.1mの高さながら、この山からの眺望は素晴らしく、志賀島や能古島、玄界島などが一望でき東区にとっては、最も身近に感じる山であろう。また同じ山でも粕屋郡の篠栗町と須恵町の境界にある「若杉山」を詠んでいる校歌も14%程みられた。「若杉山」は「立花山」よりも少し離れた場所

上部の部位に関する文言の多いのが特徴的である。

3 校歌に見られる色彩の表現

色彩について (143校)

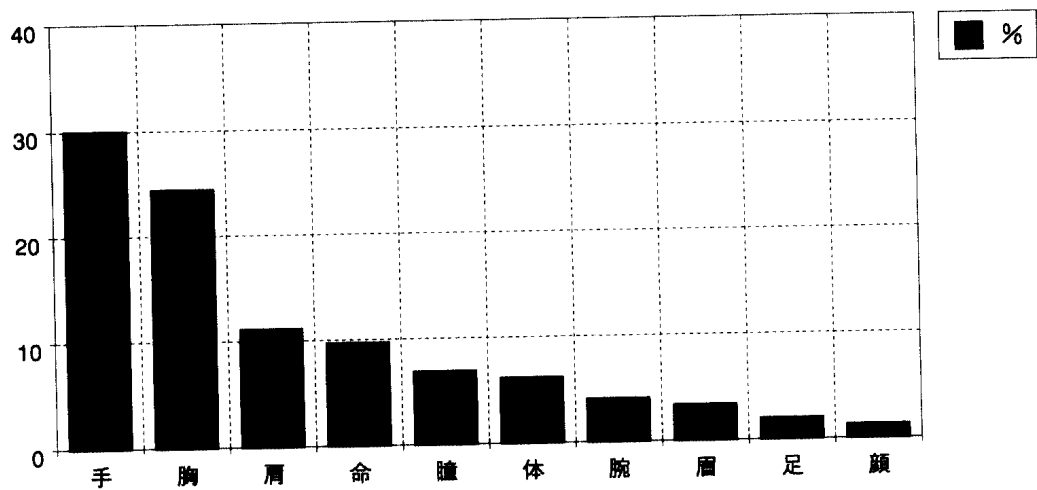
1) 緑	69校	48.2%
2) 青	21校	14.6%
3) 白	20校	13.9%
4) 茜	5校	3.4%
紫	5校	3.4%
5) 赤	1校	0.6%
紅	1校	0.6%
黄金	1校	0.6%
紺碧	1校	0.6%
バラ色	1校	0.6%



校歌の中には、いろいろな色彩が詠みこまれている。色彩というのは視覚

10) 顔	2校	1.3%
11) 背	1校	0.6%
ほほ	1校	0.6%
耳	1校	0.6%
目	1校	0.6%
まなこ	1校	0.6%

身体の部位について



(グラフは表の10位までとする)

校歌の中には身体の部位を表わす文言が多く見られる。上記のように「手」という文言が最も多く詠まれていたが、使い方としては「手に手をとって」「みんな友だち手をつなぎ」「手をふれば雲はこたえる」「友と手を取り語りあう」などが見られる。即ち助け合っていこうという思いが校歌の中に強く込められていることがわかる。

次に「胸」である。使い方としては、「みんな仲よく胸はって」「大志は胸にとどろきて」「輝く空に胸をはり」などがあり、自信に満ちた態度をとって堂々としてほしいという思いが伝わってくる。

次に肩である。使い方としては、「われら肩くみ生き生きと」「心の友よ肩を組み」「手と手をくんで肩をよせ」などがあり「手」の場合と同じように、連帯、助け合いという思いがこめられている。その他「瞳」「目」など身体の

て表わしているのではないかと思われる。

第二位の「伸びる」という文言は40.5%の校歌に使われているが辞典によると「広がる，長くなる，成長する，のびのびとする，ゆったりする，ゆたかになる，勢いがよくなる。」^(註8)とある。

「伸びる」の使い方，前後の言葉を見ると，「伸びゆく力逞しく」「伸びよう伸びよう手を組んで」「希望にもえて伸びようよ」のようになっている。即ち「伸びる」という文言は成長過程の児童生徒にとって大切なことである。学校生活の中で体力的にも，学力的にも，精神的にもますます成長してほしいという思いがこめられているのではないかと思える。

第三位の「強い」という文言は39.1%の校歌に使われているが辞典によると「力がある，勢いがある，頑丈で耐える力がある。」^(註9)とある「強い」の使い方，前後の言葉を見ると「強い心の我が友よ」「強くみんなで進もうよ」「心も強く，身も強い」のようになっている。「強い」は単なる身体的な強さのみでなく，心の強さを願っていることがよくわかる。

このように見えてくると「輝く」「清く」なども含めて，これらの徳目的文言は人間が成長する上で大切なものであり願いが強く感じられる。

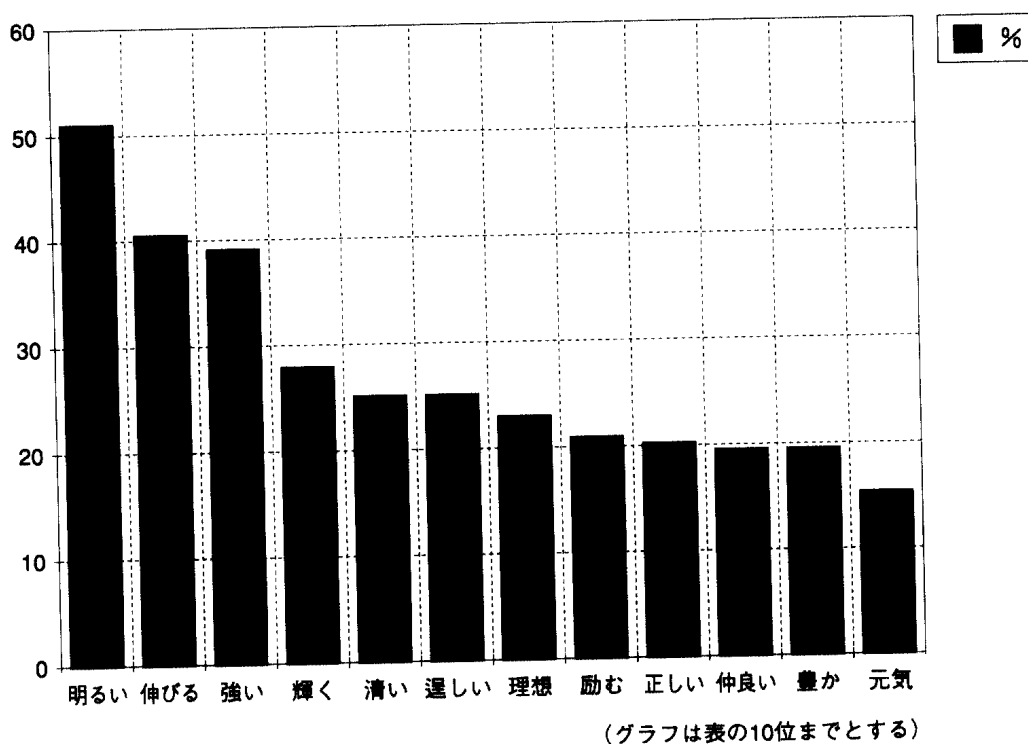
2 校歌に見られる身体の部位の表現

身体の部位について (143校)

1) 手	43校	30.0%
2) 胸	25校	24.4%
3) 肩	16校	11.1%
4) 命	14校	9.7%
5) 瞳	10校	6.9%
6) 体	9校	6.2%
7) 腕	6校	4.1%
8) 眉	5校	3.4%
9) 足	3校	2.0%

24) 意気	2校	1.3%
規律	2校	1.3%
躍進 など	2校	1.3%
25) 勤勉	1校	0.6%
自立	1校	0.6%
勤労 など	1校	0.6%

徳目内容について



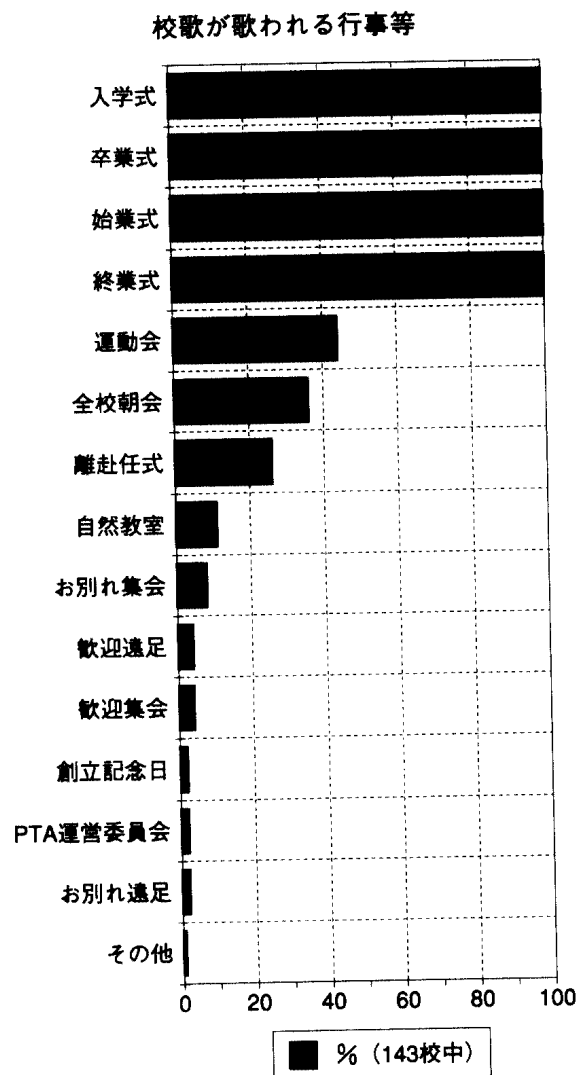
校歌に見られる徳目的内容表現については上記の通りであるが全体的に前向きなイメージをもつ内容が多い。

第一位の「明るい」という文言は福岡市内143校のうち実に51%の小学校の校歌に使われている。辞典によると「明るい」の意味は「性格、表情、内実などに曇りがなく晴やかである」^(註7)とある。ここで「明るい」という文言は、校歌の中では、「明るくひびく歌声は」「明るく強く手をつなぎ」「明るく今日も学びゆく」「明るい顔に光さす」のように詠まれている。即ち「明るい」という文言は児童生徒にとってわかりやすく、子供達のあるべき姿、願いとし

校歌に関する調査研究 1 (牛島)

遅しい	36校	25.1%
6) 理想	33校	23.0%
7) 励む	30校	20.9%
8) 正し	29校	20.2%
9) 仲良い	28校	19.5%
豊か	28校	19.5%
10) 元気	22校	15.3%
11) 楽しい	18校	12.5%
12) 優しい	17校	11.8%
13) さわやか	16校	11.1%
14) 健やか	13校	9.0%
15) 美しい	11校	7.6%
16) 雄々しい	10校	6.9%
徳	10校	6.9%
17) 誠	9校	6.2%
18) 賢い	8校	5.5%
智	8校	5.5%
19) 努力	7校	4.8%
はばたく	7校	4.8%
20) 愛	6校	4.1%
21) 智恵	5校	3.4%
助け合い	5校	3.4%
22) 英知	4校	2.7%
真理	4校	2.7%
23) 正義	3校	2.0%
自主	3校	2.0%
自由	3校	2.0%
睦み	3校	2.0%

校歌が歌われる行事等	学校数	%
入学式	143	100
卒業式	143	100
始業式	143	100
終業式	143	100
運動会	63	44
全校朝会	51	36
離赴任式	37	26
自然教室	15	11
お別れ集会	11	8
歓迎遠足	6	4
歓迎集会	6	4
創立記念日	3	2
PTA運営委員会	3	2
お別れ遠足	3	2
その他	1	0.7



第三章 校歌の歌詞に見られる特色と考察

1 校歌に見られる徳目的内容表現

徳目内容について (143校)

1) 明るい	73校	51.0%
2) 伸びる	58校	40.5%
3) 強い	56校	39.1%
4) 輝く	40校	27.9%
5) 清い	36校	25.1%

第二章 校歌が歌われる行事

学校行事というのは学校生活を送る中で、節目、節目であり、学校生活の中でなくてはならぬものとして定着している。また文部省は、中学校学習指導要領の特別活動の領域において次のように述べている。「学校行事においては、全校又は学年を単位として学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感を深め、学校生活の充実と発展に資する体験的活動を行うこと」^(#5)。

この学校行事の中に5つの項目があり、その一つである儀式的行事では「学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活への動機づけとなるような活動を行うこと」^(#6)とある。

学習指導要領においては、儀式的行事の内容は例示されていないが、私自身の教職経験からすると、入学式、卒業式、始業式、終業式、運動会などの学校行事においては、必ず歌っていた。そこで今回は、どのような学校行事において校歌が歌われているか、福岡市立全小学校(143校)にアンケート調査を実施した。その結果は次の通りである。

このアンケート結果からわかるように、入学式、卒業式、始業式、終業式においては、全校で歌われていることがわかる。この4つの行事は学校行事の中でも最も重視されている行事と言えるであろう。このように大切な柱となる行事において、その学校の象徴である校歌を歌うことは、教師、児童生徒にとって、心を新たにし、集団への帰属意識を高め自分の学校を意識するのに最もふさわしいと言える。

また運動会、全校朝会においても多くの学校で歌われていることがわかる。その他、離赴任式、自然教室、お別れ集会、歓迎遠足、歓迎集会、創立記念日など、いろいろな学校行事で歌い継がれ、児童生徒の心に深く残っていくのだと思う。だからこそ卒業後も校歌を歌うことにより、当時の学校生活のさまざまな場面を思い出し、学校生活の風景を思い出すのであろうと考えられる。

即ち学校の説明文とも言える。歌詞の中に詠い込まれている言葉をよく見ると、どのような環境の中に学校があるのか、どのような理想を目ざしているのかがよくわかる。校歌の起源については、浅見氏によると「文部省が1892年（明治26年）8月12日に『祝日大祭歌詞並楽符』を告示したことに始まるようです」^(注4)とある。

各学校における校歌制定の経過を辿ってみると多くの場合、開校の年につくられている。そこで今回は福岡市の公立小学校（143校）において校歌がどのような時に歌われているか、また歌詞の中に含まれる文言にどのようなものが詠まれているかを頻度上位から枚挙する方法で集計、分析し、校歌の特色を考察することにした。

第一章 調査研究の手続き

1 調査対象 福岡市立公立小学校（143校）

2 調査方法

福岡市教育委員会初等教育課を通して福岡市立全小学校から校歌を集め、次の観点から分析することにした。また合わせてアンケート調査を実施した。

3 調査日 1999年10月～2000年7月

4 分析の主な内容

① 校歌が歌われる行事

② 校歌の歌詞に見られる特色

- ・校歌に見られる徳目的内容表現
- ・校歌に見られる身体部位表現
- ・校歌に見られる色彩の表現
- ・校歌に見られる自然群の表現（野山、河川、海など）
- ・校歌に見られる地形や自然現象
- ・校歌に多く使われる文言

校歌に関する調査研究 1

—— 福岡市立小学校を中心に ——

牛 島 達 郎

はじめに

「今ここに^{えにし}縁ありて、^{つど}学びて集う」「雲、湧きおこる脊振山」「光あふれる、筑紫野の」。これは私が勤務した中学校の校歌のそれぞれの冒頭歌詞である。校歌とは、その字の示す通り学校の歌であり、公立学校には必ず校歌があり、校歌はその学校に通っている児童生徒であれば、ほとんどの人が知っている。また卒業生でも同窓会などの最後には必ずと言っていいほど校歌が歌われる。教師と児童生徒によって学校が構成されていることが当然のように校歌も学校の構成員としてその位置を確立している。校歌は学校の儀式的行事や体育的、文化的行事をはじめ、さまざまな機会において歌われている。完全に覚えてはいなくてもメロディーは知っている。一番の歌詞は知っているというように、自然と体に染みこんでいる人が多い。

大庭氏は「校歌は集団生活としての学校社会で、共に育て会い、育ち合う生徒間相互や師弟間相互の潜在カリキュラムとして有効なポテンシャルを有するものと思われる」^(註1)と述べている。

それでは校歌とは一体どのようなものだろうか。辞典によると「その学校の理想・特徴・精神などを盛り込んで作詞，作曲され，式典や祭典のときに学生，生徒，児童が歌う歌」^(註2)「学校で健学の理想を歌い，校風を発揚するために制定した歌」^(註3)とある。つまり校歌とは「独自の教育方針と学校の理想を歌い，校風を発揚するために制定されたもの」と考えることができる。